わくわ～くちば work
No.110
2018. 1

ワーカーズ・コレクティブ(W. Co)とは…
同じ目的を持った仲間が作り出す、地域に有用な事業／出資・労働・経営を全員で担う／働くことを通し、社会的・経済的・精神的自立をめざす

ワーカーズ・コレクティブ全国会議in北海道　報告

特集

社会的連帯経済」とは？
～ワーカーズ・コレクティブの役割を考える～

WNJ（ワーカーズコレクティブ・ネットワーク・ジャパン）主催の第13回ワーカーズ・コレクティブ全国会議が、10月21~23日、北海道札幌市で開催されました。今回のテーマは「奪いあう経済からたすけあう経済へ」～ワーカーズ・コレクティブは社会的経済の担い手～。全体会と８分科会、そして３つの自主企画とツワー企画があり、３日間で合計706人（千葉から17人）が参加しました。

交流会でのアピール

WNJは、もともとワーカーズ・コレクティブ法の法制化運動のネットワークとして、各都道府県のワーカーズ・コレクティブ連合組織を会員に1993年に組織されました。法制化運動が停滞するなかで、2年に1度開催する全国会議は、全国の仲間から勇気とエネルギーをチャージする場です。生活クラブ運動から誕生した『働く人の協同組合＝ワーカーズ・コレクティブ』も30数年の経過とともに、メンバーの高齢化や経営不振を理由に、廃業や連合組織からの脱退などで数を減らしています。

今回の全国会議では、耳慣れない『社会的連帯経済』をテーマに、よりよく生きる、働くことと命の価値を、自分たちの暮らしと人に寄り添いながら、不具合があれば声に出して社会を変える力に転換していく必要性と「ワーカーズ・コレクティブとは」について考えました。

『社会的連帯経済』とは、市場経済が生み出した格差や貧困、環境破壊に抵抗して、今の社会を変えたいと世界中に同時多発的に起きている運動の総称です。その担い手には協同組合やNPO、NGOなどが想定され、社会運動でもあるワーカーズ・コレクティブも当然、その一員です。

人手不足と経営不振にあえぎ、目の前の課題に追われる各事業所にとって、理想はわかるが…という話ではありますが、一方で、ワーカーズの事業所の多くが20年～30年と存続している事実は、一般企業の生存率が10年で５％であることを考えると奇跡です。それは、生活クラブグループとの連携にも支えられていますが、単純に、ワーカーズ自身が「大変だけど楽しい、面白い」と思える働き方をしているからです。そして、ワーカーズの志と努力を地域が支持してくれているからです。それこそが、ワーカーズの力であり、社会を変える力だと思います。

問題は、その力をワーカーズ自身も、そして社会（コミュニティ）にも見える化できていないことです。

今回の全国会議は、創立25周年目を迎えるワーカーズ・コレクティブ千葉県連合会にとっても、中間支援組織の次のステップとして、何を、どこを目指すべきかを考える機会となりました。

ワーカーズコレクティブ千葉県連合会理事長　北田惠子

全体会

基調講演「支えあって生きる～社会的連帯経済が実現するもう一つの世界」

柳澤敏勝さん（明治大学副学長）

「小さい歯車」があって動く社会的連帯経済

社会的連帯経済とは、企業や行政では埋められない必要とされるサービスを、営利を目的としない組織…協同組合、共済組合、アソシエーションなどの数多くの自発的な自助グループによって維持される社会と捉えました。

イタリアの「社会的協同組合法」を始め、世界では社会的協同組合への理解が進んでいます。韓国での「協同組合基本法」は、コミュニティへの貢献、市民による設立、資本所有に依存しない意思決定、影響を受ける人々の参加、利益分配の制限が指標となっています。

日本ではバブル崩壊後、非正規雇用が拡大し格差も拡大しています。そうした社会の流れに対して、農協・生協などの協同組合、ワーカーズ・コレクティブは地域に目を向け、連携して活動を広めています。ワーカーズ・コレクティブの「地域が必要としている事業」は、社会的事業であり、社会連帯を実践しているのです。行政や企業の及ばないサービスを地域の中で行うことは、今社会が抱えている問題を解決する一助になると思います。働きやすく、生きやすい社会は、協同組合が行政や企業と連携することで創られていく。そこにはワーカーズ・コレクティブの力もなくてはならないという思いを強くしました。

鳴島美也子

第１分科会

社会的連帯経済を広げるための法制度

雇用主のいない労働

ワーカーズ・コレクティブを法的に定義すると、どのようなものになるのか。

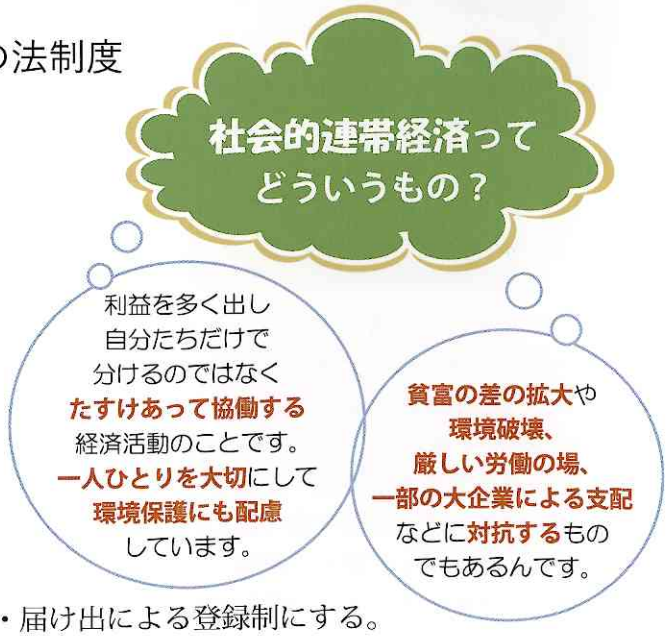
ワーカーズ・コレクティブとしての最も重要な点は、雇用主がいない、全員が出資して、等しく１票の権利を持ち、働き方を自らで決めることです。

現状の法人格としては、３分の１がNPO法人、６分の１が企業組合、法人格を取得していないところがおよそ半分という状況になっているとのことです。

各法人格の問題点は、出資ができない、会計が煩雑、行政の認証が必要、企業組合は行政の許認可が必要で営利法人とみなされ、代表という雇用主が必要です。そして、雇用主がいないと、働く人の保障である労働保険が適用にならないという問題もあります。

以上を踏まえて、目指すところとしては、

・出資はするが、出資配当はしない。
・全員に労働保険の適用を（代表も）
・あまり細かくは規定しない。



・届け出による登録制にする。
・現在の法人格からの変更を簡単にできるようにする。

というのが、私の理解したところです。

ワーカーズ・コレクティブという共同労働の働き方が、社会的に認知されることに繋がる一歩になればよいと思います。

最後に、「制度は恐れず使いこなそう」という共同連事務局長　斉藤さんの言葉が印象に残りました。

島田由美子

第2分科会

社会的連帯における中間支援組織の役割
住みやすい街づくりの歯車

30数年前にワーカーズ・コレクティブが誕生して以来、わたしたちは地域で、「支え合って生きる社会」を目指し、企業、行政と共に連携し、ネットワークを結んで行こうと考えてきました。また、就労困難な状況にある人たちとの「共に働く」ことにもっと「力」を注ぐ必要があります。

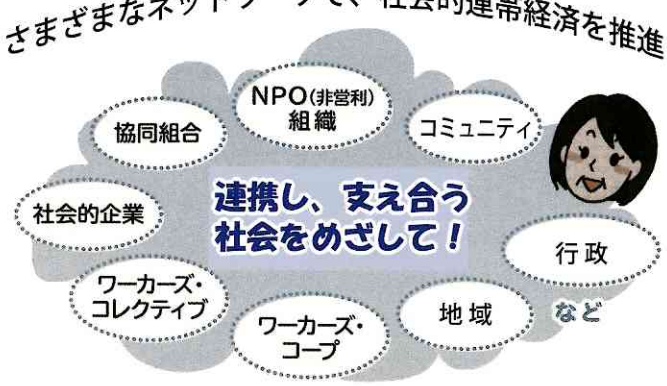
それには、まずワーカーズ・コレクティブの存在感を高めるために、全国会議・講座・学習会等の開催・講師の派遣・書籍等の販売、法制化運動の活発化・推進、税と社会保障制度の学習会、広報活動の見直し。

次に中間支援組織の機能強化として、新たな事業の設立推進のための起業講座、税と社会保障制度の学習会、人材育成講座等の計画・実施、さらに資金作りも含めたサポート体制の整備も必要です。

また、世界に目を向けると社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク（RIPESS）が、国際労働機関(ILO)、職業農業機関（FAO）、持続可能な開発目標（SDGｓ）、世界銀行、国連経済社会理事会（ECOSOC）などの国際機関へ政策立案することで、中間支援組織として、多くの活動家たちへの支援となっています。

私たちに身近な自治体・コミュニティ・地域の規模でも、リペスのような運動が求められています。中間支援組織の役割として、広報活動を強化し、内部から様々な専門家を育成し、地域の必要を拾っていくことこそが、ワーカーズ・コレクティブの大きな「力」になると考えます。

後藤里美



第3分科会

ワーカーズで働き続けるための保障を考える
—厚生年金と健康保険加入に関する課題—

社会保険とは、皆が恩恵を受けて安心して暮らすために、強制加入が原則です。またこれが機能するためには財源の確保と安定が必須で、収入のある人は能力に応じた負担をする。すなわち共助のシステムであり相互扶助。「助けることができる人はできる範囲で助ける」しくみです。

問題点は、小規模な事業所で事業高が少なく、個人収入が少なくても、法人格を持つ事業所の代表者は社会保険（厚生年金、健康保険）に入りなさいと日本年金機構から通達がきて、立ち入り調査が入っていることです。未加入の場合のペナルティとして、追徴と罰金があります。

各事業所は、「被扶養者のままでリーダーになれない。平等に活動・運営・分配するしくみが崩れ、金銭負担で運営が困難になる。スタッフ募集するのに社会保障がないと公に募集しにくい。雇用関係という考え方に合わせることに違和感がある。少しでも早くワーカーズの働き方に合った法制度、社会保障の成立が望まれる」など、たくさんの課題を抱えています。

ワーカーズ・コレクティブ共済は、日本には雇用関係でない働き方を保証する労働保障制度がないので、継続して働き続けることを支援する必要を考えてできた共済です。

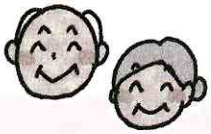
財源の問題、雇用関係のこと、法人格があるだけで強制加入とされる問題等、解決しにくいことが多く、法律で縛られていることもあり、正解を見つけにくい課題です。

熊澤聡子

第4分科会

高齢者介護から見えてくる様々な課題～多様化する支援と地域連携～
私たちができること、やりたいことは何？

ダブルケア・トリプルケアとは、少子化と高齢化によって、特に女性の晩婚化で出産年齢が高齢化し、親の介護と子育てを同時にしなければならない事例です。W.Coのメンバーでも実際に親の介護、孫の面倒を見ながら仕事を続けていますが、その継続性は、お互いの支え合いがあるからこそです。それがW.Coの強みでもあります。



地域・福祉部会から

社会的連携経済とは何か、私たちワーカーズがやってきたことであり、これからもやることです。生まれてから最期まで、地域の中で幸せに暮らしていけるよう、地域・行政・家族と連携をとり、私たちは何ができるのか、何をしなくてはいけないのかを考えていく。部会の中で、また、他の部会とも連携していくための仕組みを整え、事業を行っていきたいと思います。

高齢者のお宅にケアに入ると、家族に就労しない（統合失調症や障がいがあり働けない）子どももいて、介護保険で家族のケアはできないため、行政やケアマネジャーなど、別々のところで相談して連携しなければいけません。高齢者・障がい者・子ども・健常者の区別なく、コーディネートできる機能を持ったところが必要です。

埼玉の〈たすけあい輪っはっはW.Coはな〉では、365日毎日７年間生活支援を続けたとのこと。朝チャイムで起こし、朝食・洗濯のケアを行い、入退院を繰り返し、最後まで自宅で暮らしたいという希望に沿ってケアを行いました。こうしたケアを当たり前のこととする事業が、地域や行政からの信頼に繋がっています。

地域で安心して暮らしていくためには何が必要か、どんな仕組みが必要か、私たちに何ができるのか、未来予想図を描いていきたいと思います。

鈴木二味子

第5分科会

食を通した地域連携とまちづくり
あったらいいな！ コミュニティカフェ

食のワーカーズの役割として安全・安心な美味しい物を作り、提供することは大事なことですが、果たしてこれだけで食の事業を継続して経営し、残っていけるのでしょうか？

今年度は「食を通した地域連携とまちつくり」とテーマを決め、地域連携している事例を伺い、その役割と重要性の課題について考えます。

北海道 W.Co「えこふりぃ」は、うた声カフェから始まり、自主企画から参加型企画へとお客様同士のつながりが少しずつ広がり、20 人入ればいっぱいになるような狭い場所ですが　病気ばかりしていた人がカフェに通い始めてとても元気になられたことがうれしくて、わくわく・ゆるゆる・おいしいを提供し、若いスタッフが働ける環境・仕事作りを考えて客層を広げていきたいと元気に報告されました。

大阪 W.Co「はんど」の山口さんは、「このままじゃダメ！　わくわくした若い時を思い出し、もっと人が行き交う街での新たな人材発掘・出会い・展開へ動き出すべき」と話されたことに感激しました。

神奈川 W.Co ミズ・キャロットは、食を通して地域と繋がり、地域を豊かにし、安心安全な食材でバランスのとれたメニューを中学生に提供し、食育も担っています。

北海学園の菅原先生は「こういうカフェがあったらいいな・持ちたい」と、思いを形にしていくことが大事で「出会い・集い」を生み出す機会や場を作ることが　地域コミュニティの活性化に向けた第一歩と、いろいろな課題を提示しながら講演してくださいました。

空家が増えている今、食の事業を活かして人と人との「輪」が広がるコミュニティカフェができるよう、そして次世代の食の事業へと繋がっていけるよう、働きかけたいと思いました。

江口敬子

第6分科会　多様な子育て支援の実態と、望ましい包括的支援のあり方

家庭訪問型子育て支援

報告の中で一番興味を引いたのが、産後ケア事業です。自分の親が遠方にいたり高齢だったりなどで出産後のママのケア（家事など）が十分に行われないケースが多くなっていますが、出産前から出産後にかけて、家事一般を手伝いながらママの支えとなるこの事業は、まだあまり知られていません。札幌の助産院が始めた先進的な事業ですが、昨年、札幌市から９割の助成金が出ることになり、利用が増えたそうです。船橋市では2017年６月から産院の一部で、千葉市でも2017年７月から取り組みがスタートしました。今後この動きは、千葉県内でも多くなってくることが予想されます。

私たちの事業所でも、この「産後ケア」の依頼が少しずつ増えています。生活クラブの組合員が利用できる「エッコロ制度」や、生活支援を行っている事業所が連携し、それぞれの独自サービスをＨＰに反映させたり、組合員に利用を働きかけることで、病院や自宅での産後ケア事業がもっと広がると思いました。

他に、家から出られず孤育てになっているママに寄り添う家庭訪問型の支援事業、人材確保やフォローアップの研修などに助成金や賛助金を利用する工夫についても聞くことができました。

飯沼菜津子

食部会から

食部会には食の事業を行っているワーカーズが参加していますが、食の事業と言っても惣菜や弁当を製造販売するところ、施設厨房、レストランといろいろな業態があります。そのため話し合いの内容がすべての事業所に当てはまるわけではなく、多くの問題を討議するには時間が足りないのが課題です。少しでも他の事業を知るために、「メンバーで施設厨房に行って、入所者と同じようにお食事をいただく」ことをしてみようということになりました。

第7分科会　地域活性化に向けた生協とワーカーズ・コレクティブの協働

ワーカーズ・組合員・職員　お互いを認める「パートナー」

「10年後の配送ワーカーズ」のビジョンを描く中で、生協（組合員・職員）とのパートナーシップの構築があります。

人と人、人と地域をつなぐ、事業と運動の多様な担い手の一員として、配送ワーカーズの在り方をそれぞれの立場から意見交換し、それをヒントに各ワーカーズの政策作りに反映できればというものです。

配送ワーカーズの人員不足問題解決に向けた取り組みや、働く環境整備の必要性などを共有しました。また、組合員主権である生協の中で、ワーカーズ・コレクティブとして組合員の管理領域を高めていく必要性と、生活クラブ運動を高めていくには専従領域を組合員がどう取り戻していくかかが重要である、という埼玉の重森専務の発言は印象的で、改めて配送ワーカーズの位置づけを考えさせられるものでした。

まず、ワーカーズ自身がプロとして、生協の運営を支える１人であることを強く認識し、対等互恵であるなかで、3者(組合員・職員・ワーカーズ)をパートナーとして認め合う場を作り、さらにそのことを、地域や社会へも常にアピールしていくことが大事です。

風間由加

受託部会から

委託ワーカーズ・コレクティブとして必要な生協（組合員、職員）とのパートナーシップを作るため、お互いの意思を確認し、レベルアップしていくために労働環境を整備して、働き続けたい職場づくりを目指します。働く層を厚くし、多様な働き方で事業を継続していきたいと思います。

第8分科会

社会的包摂である「ともに働く」ことの拡充＞

共に働くは、共に生きること

＊第３世界ショップ：貧困とそれによりもたらされる世界の諸問題を 仕事創りで解決しようと1986年にフェアトレード事業を始めた。

分科会は、自分が理想とする「共に働く場」を次々と実践していった石澤利巳さん（ＮＰＯ法人札幌障がい者活動支援センターライフ専務理事）のお話から始まりました。石澤さんは郵便局員だった若い頃、過酷な労働条件に疑問を感じていました。後に第3世界ショップ＊でワーコレの働き方を知り、印刷屋を開業。一緒に働きたいという重度障がい者からの相談をきっかけに、共に働ける作業所を立ち上げました。能力主義、資格主義が主流の世の中で、「みんなが同じ立場で」というのが石澤さんの理念。働きにくさを抱えた人たちが健常者と対等に、共に働くことの難しさは同賃金へのクレームにも現れましたが、その都度、話し合って理解を深める努力をしてきました。

2006年に障害者自立支援法ができ、障害者雇用は一見進んだかに見えますが、実態はお粗末。「一般就労か、福祉作業所かを選ばせる社会はおかしい。障がい者から利用料を取る制度はおかしい」と、今度は利用料を取らないＮＰＯ法人を立ち上げ、制度作りにも奔走。行政を動かし、札幌市独自の「障がい者協働事業」制定を実現しました。さらに「この問題は障がい者だけでなく、ホームレス、刑期を終えた人たち、生活困窮者、制度から落ちこぼれた弱い立場の人たちも含めて考える必要がある」と、ＮＰＯ北海道社会的事業所支援機構を立ち上げ、共に働き共に生きる「共同の家」づくりを進めています。

地域の中に、地域に必要な、地域に合った「お互い様」の社会を自分たちで作っていこうと、80歳を過ぎても現場作りに奔走する石澤さんのエネルギー、熱意に圧倒されました。「共に生きる覚悟がなかったら、共に働くことはできない」その言葉は、石澤さんの生き様そのものです。

◆多様な人を受け入れるワーカーズ・コレクティブの働き方こそが今の社会には必要で、これからの社会を変える可能性を持っていると確信しました。ただ、各事業所が個々に頑張るだけでは広がらない。未来をどう描くか。それを実現するには何が必要か。社会にどう発信していくか。連帯・連携し、運動をどう進めていくか。課題は山ほどあります。

猪俣悦子

自主企画１

オルタナティブな働き方にふさわしい労働保障とは

ワーカーズ・コレクティブのメンバーが元気に働き続けるために必要な保障

ワーカーズで働いてもうすぐ４年。それまではサラリーマンで、健康保険などの社会保険は完備していましたので働く上では保障されて当たり前と思っていました。

退職し、健康保険も国民健康保険となり、保障については少し気にはなっていたのですが、幸い今、働いている配送W.Coは労災（労働災害補償）も加入しており、なおかつワーカーズのための共済もあり、気にしないでいました。

今回のセミナーに参加しようと思ったのは、ケガや病気を患った場合、各保障が、どのように適用されるか明確にしたかったのと、難しそうなタイトルの「オルタナティブな働き方にふさわしい労働保障とは」何だろうかと、興味本位的な面もありました。会場内は保険の種類、労災の加入有無などで同じ境遇の所属事業所同士のグループに分けられました。グループ討議があるのかと思いましたがそうではなく、質疑応答時に質問者の状況を確認する手間を省くのが目的で、スムーズにディスカッションを進めるためでした。

今回のこの企画で得たものは健康保険、労災、およびワーカーズ共済の適用範囲について理解することができ、同じ環境で働くメンバーにも教えることができるようになったことです。

特に、ワーカーズ共済の適用範囲は広く、年に１度の総会や、ミーティングに参加した際でも、不幸にしてケガを負った場合、労災は就業とは関係なしで適用されませんが、ワーカーズ共済は就業中として見做してくれるとのことです。ワーカーズの状況を汲み取った、心広く温かい共済保険だと思います。

水島達夫

自主企画２

メッシーちゃん弁当を作ろう！〔原価計算と適正価格の考え方を知る〕

原価計算で利益を生もう!

メッシーちゃん

首都圏４つのW.Co連合組織とWNJ、㈱スピリッツの３者で開催している「食の共同事業会議」では、食のワーカーズのブランド化を目指すために行う「メッシーちゃんキャンペーン」をさらに一歩進めて、４種類の弁当を全国に発表しました。

座長の野中さん（神奈川）からは、原価計算の方法、食のワーカーズが陥りやすい「もうけを出してはいけない」という誤解を解放し、内部留保をとりつつ事業の継続を目指そう！という話がありました。儲けを出してきちんと税金を払った上で、事業を拡大継続するにはどうすればよいのか？という力強い提案でした。

各連合組織では、発表者の所属する事業所の昨年度の決算書を参考に原価計算を行って、適正価格を設定しました。赤字の事業所は、どのようにしたら赤字が解消できるのかという方策も考えつつの発表で、会場の参加者とともに、仲間作りが最大の課題という共通項も再認識しました。

まんてん弁当

今回は、全国どこのワーカーズでも同じメニューが作れるよう、共通のレシピフォーマットも作りました。これは誰でも同じ味で惣菜が作れるという優れモノです。４種類どれもが彩りも良く栄養バランスも抜群で、とっても美味しい自信作です。

これから「メッシーちゃん弁当」があちらこちらの事業所の看板商品になって登場しますので、ぜひご利用ください！

中島美樹

ツアー

古平福祉会「れい明の里」視察見学ツアー

地域に働く人と働き場を作る

最終日の10月23日。台風が直撃する中、古平福祉会のれい明の里に視察見学ツワーに参加しました。

平成５年ごろから、障がい者の「働くこと」「生き甲斐」を支援することを目的に多機能施設、Ｂ型事業を展開してきています。入居者は、市外からも受け入れ、入居者が施設を出て、地域で自立するための職業訓練や働くことへの意識作り、体力づくりなどを念頭に、就労支援を行っています。入居者離職率も低く、入居者と施設との強い信頼関係の中で次々と事業を拡大してきているのも特徴です。

事業を拡大する都度、施設内での雇用を地域に求め、また入居者の経済的自立の受け皿を地域に求めたことで、地域の雇用の創出の循環と連携の仕組みができ、障がい者と施設への理解も進んだようです。また制度事業所を行政から受託できたことで事業的にも安定し、地域の産業と受け止められていることも特異なケースではないかと思います。長い歳月を掛けての地道な活動で地域への信頼も獲得され、雇用の創出で地域の過疎化や消費の冷え込みの歯止めとなり、地域活性化を作れていることは先進的です。

現在、利用者の施設定着率が高いことで、高齢化や、障害の重度化する利用者に合わせた活動内容に変化してきています。

人に優しい事業の展開が、事業の成長を生み出してきたことは今後の新たな展開も期待できると思いました。

北田惠子

ワーカーズコレクティブ千葉県連合会 25 周年記念イベント

いきいき　どきどき　わくわ～く

千葉に初めてワーカーズ・コレクティブが誕生して30 数年。そして、ワーカーズコレクティブ千葉県連合会が発足して 25 年を迎えることとなりました。

記念企画として、版画家 大野隆司さん作成の「よしっ！」ねこをプリントしたＴシャツと手拭いの作成・販売、そしてイベントを開催することとしました。

イベントは、「ワーカーズ・コレクティブってな～に !?」という方が圧倒的に多い中、各事業所がその地域の特徴を活かしながら、地域の皆さんにワーカーズ・コレクティブを知っていただけるよう各エリア（東葛・京葉・下総）で開催することとしました。

また、食・地域福祉（生活支援、子育て、エンディング）・受託・設立推進・広報の各部会もその専門性を披露し、地域づくりを連携していくことを具体化した企画としました。

今までもこれからも、エリアを超えて連携し合い、多くの方々がそれぞれの地域で住みやすいと思える地域づくりを目指していきたいと思っています。

京葉エリア

10月15日（日）船橋市中央公民館で開催された、「第15回子育てメッセin船橋」。私たち京葉エリアでは、25周年記念事業としてブースの出展とワークショップを実施しました。

ブースでは、ワーコレの働き方をアピールする掲示物の展示と、アンケートを取りながら話を伺いました。

育休中のママが大変多く、しばらくしてから仕事を始めようというママは少なく感じました。ワークショップ「ママにも子どもにもやさしい働き方考えよう」では６名の方と働き方や仕事の両立の不安などいろいろな話ができました。今後、アンケートからワーコレに興味のある方に声をかけていく予定です。

（飯沼）

いきいき どきどき わくわ～く
おかげさまで 25th
NPOワーカーズコレクティブ千葉県連合会

下総エリア

【地域とともに 生きる つながる 働く】

2月3日（土） ワーコレ実践報告＆記念ライブ
「ＮＰＯ法人木ようの家」（京成佐倉駅南口徒歩3分）

・11:00～　エリア内ワーカーズの事業紹介
（販売）　着物リメイク品、小物等
25周年記念グッズ　Tシャツ＆手ぬぐい
ワーコレの手作りお弁当、コーヒー
（体験）　みんなが幸せな気分に「笑いヨガ」
・13：00～　記念ライブ
佐倉市在住シンガーソングライターの高橋祐哉さん（引きこもりを体験）のライブ演奏

◆各事業所の成り立ち、居場所や生活支援、働き方・事業運営，地域での連携活動も紹介します。

東葛エリア

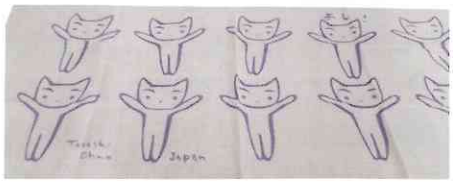
【一日遊んで学べる体験型イベント】

3月3日（土） 10：00～17：00「パレット柏」

◆日々の活動を地域の方やW.Coメンバーで体験！
・いきいきブース
・どきどきブース
・わくわ～くブース

また「最後まで元気に生きる」「よりよく生きる選択」をテーマに断捨離講座・生活支援・葬儀相談会等を開催し、「これからの街づくり」を地域の方々と共に活動している紹介をします。

25周年記念グッズ



Ｔシャツ1枚定価　￥1500
てぬぐい1枚定価　￥500
ワーカーズ・コレクティブ各事業所、イベント等で販売します。

ＨＰは下記で検索を！

ワーコレ千葉　検索

NPO Wco ワーカーズコレクティブ千葉県連合会
特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブ千葉県連合会機関紙『わくわ～くちば』第110号
〒277-0872 千葉県柏市十余二380-97生活クラブ虹の街センター柏内　TEL/FAX 04-7134-0072
Eメール　wcochiba@s2.dion.ne.jp　Webサイト　http://www.ac.auone-net.jp/~r11/wco.html
発行責任/北田惠子　編集責任/広報委員会　制作/W.Co風車　発行日/2018年１月30日（年２回発行）